

2007 年度 AJSKA 競技会指針

ポイント制度とランキング・クラス分け

参加人数の減少を反映した新しい基準に 2007 年度（2007 年 4 月 1 日）より変更いたします。
（ランキングを反映するクラス分けは 2008 年度からとなります）

ポイントはすべてのクラスで得点（小数点以下 1 桁を四捨五入）をそのまま合計し、プレジジョン・バレーの年間総合得点が多い順から年間ランキングを決定いたします。

プレジジョンは規定図形だけを行う大会も多くありますが、テクニカルルーティーンも行った大会と同じ基準で得点を加算するというのは不公平となります。

よって、プレジジョンは規定図形 3 種だけを行う場合、各図形 20 点の 60 点満点で採点し計上します。

テクニカルルーティーンも行った場合は 100 点満点となります。（ノービスも同じです）

プレジジョンがテクニカルルーティーンを含む形式で開催された場合でも、フライヤー側の都合で規定図形のみ演技でもかまいません。その場合、テクニカルルーティーンは 0 点となり規定図形の 60 点満点が得点となります。

MIX 形式で開催された場合はバレー 100 点・規定図形 60 点の 160 点満点となります。

従来のバレー 60%・プレジジョン 40%という最終集計はなしで、プレジジョン・バレー両方のジャッジの採点合計がランキングポイントとなります。（もちろん従来のノービスのようにプレジジョンだけの開催でも OK ですし、バレーだけの開催も OK です。両方開催の大会でもフライヤー側の選択で、どちらかみの競技参加も OK です。）

従来の勝ち点方式では 1 位と 2 位が 20 点差でも 1 点差でもポイント差は 1 ポイントでしたが、演技内容が年間ポイント（ランキング）に直接影響するようになります。

このポイント制度により大会の最低開催人数の制限をなくします。

これは、採点基準が 2006 年度ジャパンカップで全国のジャッジである程度統一された事を受けて実施が可能となりました。

たとえば競技者が 1 人でもジャッジは演技内容に応じた得点をつけます。

北海道の大会でペアバレーのエントリーが 1 組でジャッジが採点した 70 点と、名古屋の大会でエントリーした別の 2 組のペアがそれぞれ 80 点と 60 点だった場合でも、採点基準が全国的に揃っていればランキングとして妥当となるからです。

もちろん、2007 年度以降もジャパンカップを通して、ジャッジの採点基準の平均化は計っていかねばなりません。

また、ジャパンカップは日本を代表する大会と位置付けますので、ポイントは 2 倍に計算します。

クラス分けは 2007 年度のランキングを基準に 2008 年度から変更いたします。

マスターの称号は目指す価値のあるものとしなければいけないので、各カテゴリーの枠を絞ります。

また、統一感のなかったクラス呼称を明確にします。

オープンクラス・・・ノービスを含め、すべてのクラスの競技者が参加できます。

MAS/EX クラス・・・マスターとエクスペリエンスの競技者が参加できます。

デュアルラインのインターミディは参加人数も少なく、単独で開催される事もないので廃止します。

2008 年度のクラス基準

デュアルライン

個人 MAS ランキング上位 5 人

個人 EX ノービス以上の技量があると思われるフライヤー（自己申告）で MAS 以外の人

個人 NOV 初心者（自己申告）1 度個人カテゴリーで EX 以上のクラスに参加したフライヤーはその後の同年度大会はノービスで参加しないでください。（ノービスのままオープンクラスへの参加は自由です）

ペア MAS ランキング上位 2 チーム

ペア EX MAS 以外のチーム

チーム MAS ランキング上位 3 チーム

チーム EX MAS 以外のチーム

マルチライン

マルチラインも初めての競技参加を支援するため個人ノービスを新設します。

個人 MAS ランキング上位 3 人

個人 EX ノービス以上の技量があると思われるフライヤー（自己申告）で MAS 以外の人

個人 NOV 初心者（自己申告）1 度個人カテゴリーで EX 以上のクラスに参加したフライヤーはその後の同年度大会はノービスで参加しないでください。（ノービスのままオープンクラスへの参加は自由です）

ペア MAS ランキング上位 1 チーム

ペア EX MAS 以外のチーム

チーム MAS ランキング上位 2 チーム

チーム EX MAS 以外のチーム